

じゅん菜池のセミ

制作：2023. 03. / 田中直義. 互井賢二. 成瀬幹也. 宮城直. 井谷暢之.

●ジュンサイを残そう市民の会●

活動地域：千葉県市川市中国分 4-27

じゅん菜池緑地内 / 水草・水生生物保護育成及び動植物保護保全地区。

活動の目的

ジュンサイ池緑地 自然環境ゾーンにおいて、ジュンサイをはじめとする失われた植生の育成を図ると共に、現状の生態系の保護・保全に寄与する。

活動の内容

水生植物池を管理して、ジュンサイをはじめとする水生・陸生植物の保存・育成を行なう他、自然環境ゾーンの生態系保護・保全の為に必要な作業を実施し、トンボ他の各種生物の保全に努める。

会則より

第3条 この会は、市川市専菜池緑地公園の専菜池に、ジュンサイ及び水生植物等を復活させる事業を市川市と協力して行ない、自然環境の保護保全に寄与する事を目的とする。



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea
001. ニイニゼミ : ♂♀
Platypleura kaempferi (Fabricius, 1794)

毎年見られる。

撮影：2017. 07. 24. じゅん菜池：田中直義

RD：—



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea
001. ニイニゼミ : 羽化
Platypleura kaempferi (Fabricius, 1794)
じゅんさい池ではハルゼミが消滅したため、
このセミが6月上旬頃から最初に鳴き始める。
撮影：2019. 07. 31. じゅん菜池：田中直義

RD：—



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea
002. クマゼミ : ♂
Cryptotympana facialis (Walker, 1858)
近年はじゅん菜池でも、ほぼ毎年鳴き声が聞かれる。
撮影：2020, 09, 20. 市川市大野：互井賢二

RD：—



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea
003. アブラゼミ : ♂♀
Graptopsaltria nigrofuscata (Motschulsky, 1866)
毎年見られる。
撮影：2013. 08. 15. じゅん菜池：田中直義

RD：—



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea

003. アブラゼミ : 羽化

Graptopsaltria nigrofuscata (Motschulsky, 1866)

じゅん菜池では、10月初旬まで鳴き声が聞こえる最後のセミである。

撮影 : 2020. 08. 14. じゅん菜池 : 田中直義

RD : —



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea

004. ツクツクホウシ : ♂

Meimuna opalifera (Walker, 1850)

毎年見られる。

撮影 : 2014. 08. 15. じゅん菜池 : 田中直義

RD : —



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea

05. ヒグラシ : ♂

Tanna japonensis (Distant, 1892)

毎年見られる。

撮影 : 2014. 08. 15. じゅん菜池 : 田中直義

RD : —



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea

05. ヒグラシ : ♂ : 羽化直後

Tanna japonensis (Distant, 1892)

薄暗い林にいる。

撮影 : 2018. 08. 20. じゅん菜池 : 田中直義

RD : —



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea

006. ハルゼミ : ♂

Terpnosia vacua (OLIVIER, 1790)

1930年代まで生息していた(談: 成瀬幹也)。
現在では棲息環境が失われ、じゅん菜池では消滅した。

撮影 : 2021, 06, 10. 山梨県北杜市 : 田中直義

RD : —



Ⅱ. セミ科 : Cicadoidea

007. ミンミンゼミ : ♂

Hyalessa maculaticollis (Motschulsky, 1866)

毎年見られる。

撮影 : 2022. 08. 09. じゅん菜池 : 田中直義

RD : —



II. セミ科 : Cicadoidea

06. ミンミンゼミ : ♀

Hyalessa maculaticollis (Motschulsky, 1866)

アブラゼミやニイニゼミなどとは異なり、ヒグラシやエゾ
ハルゼミと同じく森林性である。

撮影 : 2022. 08. 09. じゅん菜池 : 田中直義

RD : —



夏のじゅん菜池

水草・水生生物保護育成及び動植物保護保全地区。

撮影. 2020. 08. 26. 井谷暢之.

千葉県に生息しているセミー覧

- セミは世界に約 2000 種。日本を含む東南アジアに 650 種ほどが記録されている。
- 日本には 30 余種いることが知られており、千葉県には国内移入種を含め約 10 種類が分布しているとされる。
- じゅん菜池には、5 種類が棲息している。(ハルゼミが消滅しクマゼミが新たに分布した。)

ニイニゼミ族 *Platypleurini*

ニイニゼミ属 *Platypleura*

1. ニイニゼミ *Platypleura kaempferi* (Fabricius, 1794) ・ ・ じゅん菜池

- 1) 北海道、本州、四国、九州、対馬、口之島、奄美大島、沖縄本島以北の南西諸島。台湾、朝鮮半島、中国に分布する。
- 2) ただし喜界島・沖永良部島・与論島には分布しない。

エゾゼミ族 *Tibicenini*

エゾゼミ属 *Tibicen*

2. エゾゼミ *Tibicen japonicas* (Kato, 1925)

- 1) 北海道(焼尻島、奥尻島を含む)のほか、本州、四国、九州、佐渡島、隠岐諸島に分布する。北海道では十勝地方を分布の東限とする。
- 2) もともとエゾゼミは、コエゾゼミと異なり南方系のセミであり、夏でも気温があまり上がらず涼しい北海道よりもむしろ長野県や南東北(特に長野県)で多く見られる傾向がある。

クマゼミ属 *Cryptotympana*

3. クマゼミ *Cryptotympana facialis* (Walker, 1858) ・ ・ じゅん菜池(分布北上中)

- 1) クマゼミは南方系のセミであるため、西日本から東海地方の太平洋側と関東地方南部に多数分布しているが、山陰地方以北の日本海側と内陸部では棲息数が少なくなり、北日本には分布しない。
- 2) 近年、関東地方では棲息数を増やしており、じゅんさい池でもほぼ毎年鳴いている。気候の温暖化や植樹に伴う卵・幼虫の移動の可能性を推定している。

アブラゼミ族 *Polyneurini*

アブラゼミ属 *Graptopsaltria*

4. アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata* (Motschulsky, 1866) ・ ・ じゅん菜池

- 1) 北海道から九州、屋久島。朝鮮半島、中国北部に分布する。
- 2) 市街地や果樹園などにも棲息する。

ホソヒグラシ族 *Cicadini*

ハルゼミ属 *Terpnosia*

5. ハルゼミ *Terpnosia vacua* (Olivier, 1790) ・ ・ じゅん菜池(消滅)

- 1) 本州・四国・九州に分布。日本以外では中国にも分布する。
- 2) ある程度の規模があるマツ林に生息するが、棲息域は局所的である。日本ではマツクイムシによるマツ林の減少、さらにマツクイムシ防除の農薬散布も追い討ちをかけ、ハルゼミの棲息地は各地で減少している。

ヒメハルゼミ属 *Euterpnosia*

6. ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis chibensis* Matsumura, 1917 ・ ・ 千葉県天然記念生物

- 1) 基亜種ヒメハルゼミ *E. c. chibensis* は西日本の固有種で、本州（北限は新潟県～茨城県）。四国・九州・屋久島・奄美大島・徳之島に分布する。
- 2) 県内：大多喜町南部の麻綿原高原一帯は一大生息地（7月中旬から8月上旬にかけて）。

ヒグラシ属 *Tanna*

7. ヒグラシ *Tanna japonensis japonensis* (Distant, 1892) ・ ・ じゅん菜池

- 1) 日本では北海道南部から奄美大島と、ほぼ全国の範囲に棲息する。国外では中国大陸に分布（朝鮮半島には分布しない。かつて記録されたことがあったが、現在は誤記録とされる）。
- 2) 平地から山地まで見られるが、九州南部以南ではやや標高の高い山地に棲息する。

ミンミンゼミ族 *Oncotympanini*

ミンミンゼミ属 *Oncotympana*

8. ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis* (Motschulsky, 1866) ・ ・ じゅん菜池

- 1) 北海道から九州まで分布し、大陸では、中国華北に生息し市街地にも棲息する。
- 2) いろいろな広葉樹に生息するが、特にサクラ類やケヤキで見ることができる。このセミはアブラゼミやニイニイゼミなどとは異なり、ヒグラシやエゾハルゼミと同じく森林性である。

ツクツクボウシ族 *Dundubiini*

ツクツクボウシ属 *Meimuna*

9. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* (Walker, 1850) ・ ・ じゅん菜池

- 1) 北海道、本州、四国、九州、対馬、種子島、屋久島、口之永良部島、中之島。台湾、朝鮮半島、中国に分布。
- 2) 平地から山地まで、森林に幅広く棲息する。地域によっては市街地でも比較的普通に発生するが、基本的にはヒグラシと同じく森林性（湿地性）であり、薄暗い森の中や低山帯で多い。警戒心が強く動きも素早く捕獲が難しい。

10. クロイワツクツク *Meimuna jkuroi wae* Matsumura, 1917 ・ ・ 国内移入種

- 1) 鹿児島県佐多岬を北限に、沖縄本島近くを南限に、九州（大隈半島）から沖縄本島以北の南西諸島に分布する。8月中旬頃から晩秋まで聞くことができる。山でも鳴いているがどちらかというと人里に近いところに棲息する。
- 2) 県内では千葉県白浜町の発生場所が館山寄り。野島崎公園から北東南西約1キロ弱に棲息。その途中はほとんど木が生えていない。また、海岸地帯は駐車場になっており、東側は市街地、西側は市街地から耕作地、北約600メートルで古くからの集落に行き当たるが、途中は水田になっているため、ほぼクロイワツクツクの発生地は隔離されているようなものである。したがって今後ともクロイワツクツクの分布拡大はむずかしいだろうされる。
- 3) なぜ千葉県白浜町でクロイワツクツクが発生できたのかと言えば、たまたま持ち込まれたクロイワツクツクが、喜界島産らしいが、それが温帯で発生することができるタイプだったようである。けっして冬が温暖でクロイワツクツクが発生したわけではない。成虫は7月から11月まで発生する。オスの鳴き声は「ジジジジ…」に、数秒ごとに「ゲッ!ゲッ!」という短い声が2回入る。鳴く時間帯は主に午前中で、ツクツクボウシとは異なる。

11. タケオツクツク *Platylomia pieli* Kato, 1938 ・ ・ 移入種

- 1) 本来は中国中部（浙江省以南）に分布。
- 2) モウソウチクやマダケ林に生息。卵が中国から輸入した竹箒などを經由してやって来たと考えられている。
- 3) 2010年ごろから埼玉県で鳴き声の確認がされ、今日では埼玉県、神奈川県、愛知県で確認されている。千葉県への侵入も時間の問題か？

・・・
・・・ジュンサイを残そう市民の会・・・